

## 令和6年度 第1回 大垣市行政改革推進審議会 会議録

日 時：令和6年8月29日（木）午後2時00分から午後3時30分まで  
 場 所：大垣市役所 3階 3-4、3-5 会議室  
 議 題：大垣市第4次行政経営戦略計画 令和5年度進捗状況の報告について  
 令和6年度事務事業等の検証依頼について

出席者（敬称略）

（委員）谷江 幸雄《会長》

野崎 道哉、田中 久志、小林 一貴、高木 健志、浅井 光寿、田中 慎也、  
 田中 禎一、多和田 智子、谷口 圭子【計10人】

（市及び事務局）

岩崎 義博（総務部長）、豊田 貴洋（行政管理課長）、  
 加藤 重徳（行政管理課主幹）、後藤 雅司（行政管理課主査）

欠席者（敬称略）（委員）杉田 邦隆、岡本 敏美、小菊 天瑠

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 委員の交代を紹介</li> <li>※ 行政の意思形成過程にあるものとして、非公開審議を宣言<br/>                 &lt;議事進行については、大垣市行政改革推進審議会設置条例第5条第2項の規定により、会長が会務を総理することとなっているため、以降の議事は会長が執り行う。&gt;</li> </ul> |
| 事務局 | <会議冒頭あいさつ>   |
| 会 長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 議事録署名者として、田中 久志 委員と高木 健志 委員を指名。</li> <li>※ 事務局に対し、報告事項（1）大垣市第4次行政経営戦略計画 令和5年度進捗状況報告についての説明を要請。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 大垣市第4次行政経営戦略計画 令和5年度進捗状況について説明。<br/>                 途中生成AIのデモンストレーションを実施</li> </ul>  |
| 会 長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいま事務局から説明がありました。</li> <li>・ご意見がありましたら伺いたいと思います。</li> </ul>   |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2の「次世代型行政サービスの充実」というところの「生成AI」について、実際には市役所の中でどの程度、どのようにして使われているのでしょうか。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、実証実験という形で試験導入をし、今年度本格導入しました。2つのAIシステムを導入し、既に全職員が使える状態になっています。ただ、職員がどう使っているかわからない、という部分もまだまだありま</li> </ul>  |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>して、なるべく業務で活用するように、と推奨している状況です。職員がどの程度業務に活用できているか、というような数字の実績は現状ございませんが、今後徐々に活用されていくのであろう、と推測をしています。</p>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生成AIは、条件をどの程度設定するかによって得られる回答が異なります。うまく条件が設定できると、ある程度期待しているような答えが返ってきますが、うまくいかないと全然意味のない回答が出てきたりもします。</li> </ul>   |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本学でも、デザイン美術学科の中で、デザインを教えている先生が積極的に取り入れられて、学生にも伝え始めているところです。言葉の入れ方によって結果が違ってくるといふものだと思いますので、例えば私たちが今現在使っているものだと、SNSやネット検索に似ているようなものだとイメージしています。使って慣れることが大切で、使いこなせるようになれば、もっといろいろなことができるようになり、便利になっていくのだらうな、という想像をしています。</li> </ul>                 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>私も時々利用するのですが、質問をすると、必ず回答は返ってくるのですが、それが必ずしも正解ではない、というイメージを持っています。ある回答を得てから、それに対して「否定的に述べよ」という指示を出すと、一度目とはまったく異なる否定的な回答を出してきます。先ほど部長も申し上げましたが、「条件の入れ方によってどのようにでも答えが引き出せる」というようなシステムですので、使う人がしっかりしていないと検証ができない、というような部分もあり、注意が必要だと感じています。</li> </ul> |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>先ほどのデモンストレーションでは具体例があったため、生成AIがどのようなものなのか、なんとなくイメージできましたが、行政の仕事の中ではどのような形で利用されるのでしょうか。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、このような会議の挨拶文の作成や、国や県から送付される資料の要約など、内部的な事務処理の中で利用していることが多いです。先ほど部長、課長も申しましたとおり、指示の出し方によって結果が異なるため、AIが出した回答をそのまま市民の方にお送りする文書等に使うことはできない状況です。まずは内部的な業務に使い、ファクトチェック（回答内容の事実確認）をしながら補正していく、というように使っているというのが現状です。</li> </ul>                         |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい事業をやろうとした場合に、「こういうことをやりたい」というように条件を与えてアイデア出しをする等の用途で使っている所属もある</li> </ul>  |

|            |  |
|------------|--|
|            | <p>と思います。自分が持っている案とは異なる案を提示してくれることもあります。ただし、その回答内容が使えるかどうかについては、使う人が検証する必要があります。</p>   |
| <p>委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料 No. 2 の 6 ページ「小中学校の再編整備等」という議題ですと、小・中学校のあり方の検討というのは上石津地域の再編だけが検討課題になっているように見受けられます。市内の小・中学生もかなりのペースで人数が減っていったというのが実態で、1 学年 1 クラスだけという学校も増えてきています。他自治体でも統廃合の話はかなり出ていますし、上石津に限らず、市内の小・中学校においてもどうあるべきかというところは検討すべきではないか、という気がしました。上石津地域だけが対象になっているということであれば、今後はぜひ市全域を含めて検討を開始してもらいたいと思います。</li> </ul>   |
| <p>事務局</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少問題は、どの自治体も頭の痛い問題でして、ご指摘のとおり、学校に限らず公共施設全般について、使用頻度の低下した施設をいかに統廃合していくのかというのは大きな課題であると認識しています。今回、上石津地域の学校再編を行ったところですが、他の学校についても検討していかなければならない、という意識は教育委員会も持っています。</li> <li>本市としても、大きな方向として統廃合に向かっていくのだろうとは思いますが、ただ「無くす」というのは非常に難しい話でして、1 クラスであっても、まずは地元にご説明し、ご納得いただくことが必要になります。また、学校は避難所等ほかの機能を持ってる面がありますので、そういったことも含めて慎重に検討を進めることになると思います。</li> </ul>   |
| <p>委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>このような話は、突然決まった話のように表に出るといえるか、統廃合を前提に話が進んでいって、当事者である保護者の方には後出しで伝えられる、ということが多いと思います。行財政改革という意味で言えば、どうあるべきか、という意見が先にあって、それを踏まえたうえで話が進んでいく、というのがあるべき姿なのかなという気がしました。</li> <li>今は部活動も地域移行していき、1 つの学校の中では部活動が成り立たず、他の学校と共同で活動するというのもかなり多くなってきています。実態として「1 つの学校が成り立つのか」というところに来ているのではないかと、この気がしましたので、ぜひ検討課題として取り上げて欲しいと思いました。</li> <li>行政手続き等の効率化に関してですが、市役所から届く郵便物とか資料は、未だに紙が多いイメージがあります。紙ではなくてもいいと思うものも結構な数があるので、ICTによる効率化でどこまで進むのか、まだ実感としてわからないなと感じました。</li> </ul> |

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のような状況は確かにありまして、何かお送りするときに、これは電子でできるのか、というのはなるべく検討はしているのですが、なかなか進んでいない、というのが現状です。学校関係でいいますと、学校給食の献立表を未だに紙で 10 万枚程印刷して配付している、という状況もございます。これを電子媒体で、という話もあったのですが、保護者の方からは「献立表は冷蔵庫に貼りたい」というようなご意見もありまして、うまく進まなかったということも聞いています。岐阜市では、学校関係の文書の大部分が電子媒体で配付されているようです。若い保護者の方は多くの方がスマートフォンを持っていらっしゃると思いますので、そのあたりも意識しながら検討を進める必要があると感じています。一方で、スマートフォンをお持ちでない方もいらっしゃると思いますので、いわゆる「ハイブリッド」で、紙も電子も併用していかなければいけないという時代が若干続くのだろうとは思っていますが、なるべく電子媒体への移行を念頭に進めてまいりたいと思います。</li> </ul> |
| 会 長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他にございませんか。</li> <li>・それでは、以上で令和 5 年度の進捗状況の報告を終わります。引き続き進行管理をお願いします。</li> </ul>  |
| 会 長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 事務局に対し、令和 6 年度事務事業の検証依頼についての説明を要請。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 令和 6 年度事務事業の検証依頼について説明。</li> </ul>   |
| 会 長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ今、事務局から説明を受けました。</li> <li>・確認ですが、次回の審議会で事務事業の具体的な説明を受けるということでしょうか。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は概略をご説明しました。詳細は次回担当課から説明させていただきます。事前のご質問や、より詳しい説明を希望される部分があればこの場でお伺いし、担当所属に共有させていただきたいと思います。</li> </ul>   |
| 会 長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、ご意見がありましたら伺いたいと思います。ご発言をお願いします。</li> </ul>   |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の会議で資料を見て、説明を受けて、その場で提言をする、ということでしょうか。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の 1 週間程度前に資料を郵送またはメール送信させていただきますので、事前にご確認いただいたうえで、当日に担当所属の説明を聞いていた</li> </ul>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>だく、という形でお願ひします。</p>  |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会等運営の事業について、現在、審議会はすべて対面で行われているのでしょうか。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が流行していた頃は、一部オンラインで実施していたところもございますが、現状は基本的に対面で行っています。</li> </ul>   |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会の委員の方が各方面からご出席いただく時に、企業であれば時間を割いてここに出てくるというの大きな負担になるでしょうし、大垣市以外で勤務されている方であれば移動そのものが負担になる可能性もあります。どういう形態で参加が可能であるのか、という点について次回の審議に際して情報をいただければと思います。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の会議で資料を準備いたします。</li> <li>・人事管理事業について補足ですが、今どの自治体も人材不足ですとか、あるいは職員を雇ってもパワハラやカスハラで疲弊してしまっているという話を聞きます。キャリア育成の観点もございますが、民間やその他の団体の方がどうやって後の世代を育てていくのか、どういった組織であれば人材やキャリアを有効に生かしていけるのかという点について、ご意見をいただけたら、という思いもあって、今回の1つのテーマとして掲げさせていただきました。</li> </ul> |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会等運営事業について、若者委員の比率が少ないということですが、若者委員の比率を高めるための対策などはありますでしょうか。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今時点では特にありません。考えられる内容として、現状多くの審議会は平日昼間に開催していますが、若者の方だとお勤めや学業がありますので、開催時間を遅くするなどの工夫はできるのではないかと考えています。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・私共が審議会等で基準としている若者の年齢を、「39歳以下」としているのですが、国が示すガイドラインによると、30歳以下とされています。特に学生、高校生の方の意見まで聞くと良い、という文言がガイドラインにあるのですが、そういった方に、平日の昼間に来てください、というのはなかなか難しいと認識しています。その辺りについても、ご意見をお聞かせいただければ、と考えています。</li> </ul>  |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのような話であれば、先ほど委員がおっしゃったような、オンラインの</li> </ul>  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>活用等が有効なのではないかと思います。学校だとすれば、学業を妨げない範囲で、学校のどこかの時間帯を使ってオンラインで繋ぐ、全員がオンラインなのか、それとも一部がオンラインなのか、方法はいろいろあると思いますが、審議会の時間だけをうまく作って参加する、というような方法が現実的ではないかと思います。</p>   |
| <p>委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事管理事業について、職員の人数を明示していただけていますが、私達は、それが適正なのかどうかを判断できません。例えば、教員であれば、超過勤務が週〇時間以上というような物差しや、子ども1人に対して職員が〇人というような数字で測ることができます。その結果として、今教員が少ないと言われています。市の職員の皆さんであれば、勤務内容も幅広いため1つの尺度では測れないかもしれませんが、残業時間がどれぐらいなのか、そのような基準があると、この人数が適正なのかそうではないのか、考えやすいと思います。</li> </ul>   |
| <p>委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事管理事業について、令和5年度は4年度に比べて特別研修が多くなっています。AIやDX関連の研修等が増えているのだろうと思うのですが、私が所属してる会社もそうですが、人材育成に関するテーマの中で、エンゲージメント（愛着、思い入れ）を高めるような研修や取組みが重要視されてきています。そのような研修、取組みをどのようにやってみえるのか、というようなことが分かるような情報をお示しいただきたく思います。</li> <li>・2つ目の審議会等運営事業について、他の委員からもご意見が出ていますが、若者の意見を聞く機会というのは非常に重要だと思っています。私もこの審議会のほかに、別の委員も1つやらせていただけていますが、どちらかといえば年齢層が高くて、意見を言いたくても言えないような状況を感じています。例えば若者の意見を集約するために、このような会議形式だけでなく、ワークショップ形式で意見を出してもらおうとか、そのようなことも検討の余地があるのではないかと思います。まず若者が集まらないといけない、というハードルはありますが、そのような仕組みも有効だと考えます。</li> </ul> |
| <p>委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事管理事業の職員数ですが、これはどのような人数でしょうか。</li> </ul>   |
| <p>事務局</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわゆる「正規職員数」です。会計年度職員を除いた数となっています。</li> </ul>  |
| <p>委員</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実質的な職員の数、ということですね。</li> <li>・学校の先生について、教員資格を取って結婚や出産を機に一度退職される。その後、お子さんの手が離れて働ける状況になったときに、以前は〇年間</li> </ul>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>以上実務経験が無いと資格が途絶える、というようなことがあり、まずは資格を再取得するために動かなければいけないというところから、なかなか復帰ができないという時代があったと思います。その資格制度が緩和されて、少し復帰しやすくなったという認識があります。このような形で、一度現場から離れ、その後戻ってきたという方がどのくらいの割合でみえるのかという数値があれば示していただきたいと思います。復職率が高くなるような取組みは重要だと思います。</p>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の場合ですと、保育所の保育士さんは、結婚、出産を機に一度退職されてから、再度戻っていただけるような働きかけをえています。</li> </ul>  |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、そのような働きかけを市の方から積極的に行う、というような取組みも、人事管理事業の一端になるのではないかと思います。</li> <li>・審議会等運営事業については、皆さん言われたとおり、審議会を対面で行うのか、Zoom等を利用してオンライン形式で行うのか、というのは検討すべきだと思います。</li> <li>・オンラインであったとしても会議で発言をするということに対して遠慮がある方も多いと思います。</li> <li>・意見収集の1つの方法として、昔の言葉で言うところの「目安箱」のような、市民の方の意見を蓄積するボックスのようなものがあるのもいいのではないかなと思います。そのボックスで意見を集約し、それを市側からフィードバック、働きかけをしていくという形で市政に参画していただくという方法もあるのではないかと思います。</li> <li>・かがやき婚活事業について質問なのですが、青年団体等に委託して事業を実施している、そのような団体が出会いの場作りというのをされてみえるということですが、市としてこの事業の目的は、そういった場を通じて大垣市に居住する人を増やすためなのか、それとも出会いの場を通して、仮に大垣市以外に居住されるとしてもそれはそれとして、まずは出会いの場作りの主眼を置いて実施しているのか、どちらでしょうか。</li> </ul> |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大垣市に定住してもらい、というようなことを前面に押し出しているわけではありませんが、かがやき婚活事業、結婚相談事業ともに、人口減少対策・少子化対策に位置づけています。子どもが増えて欲しい、大垣に住んで欲しい、ということが根本的な目的ではあります。当市では市民活動部という部局の事業として実施していますが、大半の県や市では子育て関連部局や少子化対策室のような部門で実施しているようです。</li> </ul>   |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の方向性としては正しいと思いますが、それに対して委託先の団体もそのようなことを全面的に理解したうえで事業実施してくれているのでし</li> </ul>  |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>ようか。このあたりのことがうまく共有されていないと、市が考えているイメージと実態がかけ離れていってしまう、ということが起きてしまうのではないかと危惧します。</p>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘の点については、次回の会議にむけて資料を準備させていただきたいと思います。足りない部分については、提言に含めていただけますと幸いです。</li> <li>・婚活について、現在は民間企業が運営するアプリなどが増えてきており、一部報道によりますと、結婚する方の4分の1程度の方がそのようなマッチングアプリで知り合った、というような情報もございます。今実施している2つの婚活事業については、これからも継続していかなければならないと思っておりますが、若者の意識が変わってきてるのかなというのは、本事業検証に関連して情報収集しているなかで感じたところです。</li> </ul> |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会等運営事業に関して、若者の比率が3%と、非常に少ないということで、どのようにしたら増えるのか、という話に関連してお伺いしたいのですが、基本的には団体推薦で委員を委嘱してるという理解でよいでしょうか。障害者団体、自治会、学校等、いろいろなところに委員をお願いすると思いますが、その際に、その団体の中で自由に選んでいただいているのか、それとも市から「このような方をお願いしたい」というような形で依頼するのでしょうか。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体推薦が多いです。審議会や会議の性質にもよりますが、現状としては、特定の方を指定するような依頼の仕方は少なく、各団体の判断で適任者を選出していただいている、というのが大多数だと思います。</li> </ul>   |
| 会長  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば大学であれば、「39歳以下の先生をお願いしたい」という形で依頼することは可能だと思います。あるいは行政改革の審議会の委員を依頼する場合、大学であれば行政法の先生がいますので、その方の選出をお願いすることもできると思います。団体によるとは思いますが、市も遠慮せず、できるだけ要望を伝えると、必要な人材が確保できるのではないかと思います。</li> <li>・大垣市の場合、審議会というのは大垣市の「附属機関」に位置づけられているようですが、審議会等の運営や設置についての指針はあるのでしょうか。</li> </ul>                            |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「審議会運営要綱」がございます。その規程のなかで、委員数や会議の公開区分等を定めています。次回の検証の際に、そちらの資料もご用意いたします。</li> </ul>   |

|     |   |
|-----|---|
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の比率等についても明記されていますか。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の比率については、「男女参画プラン」の中で目標が定められています。4割から6割程度、と規定されていたと記憶していますが、おおよそその比率を守るように意識しています。なお、若年委員は0%という基準は設けてございません。</li> </ul>   |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会委員の年齢層の関係ですが、現在子育てをしてる女性たちが委員になっていることがほとんどなく、お子さんをお持ちのお母さんの意見というのが、どこの会議でも集約されていないと感じています。</li> <li>・私は女性連合会の代表としてこの会議に参加しており、他の会員も他の会議に出席していると思います。女性連合会も会員数が少なくなっているため、本音を言えば「少し減らして欲しい」と思っている反面、子育て世代の女性という一番大切な年代の意見が反映されていないと感じます。例えば、高齢者の意見は連合自治会長さん達が代表してくださると思いますが、子育て世代の意見を反映させられるようになると良いと思います。</li> </ul> |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会に代わる代替手段として、パブリックコメント等が考えられます。いろいろな委員会でパブリックコメントを実施されていると思いますが、どれぐらいの市民の方がコメントされているのでしょうか。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の実績として、14のパブリックコメントを実施したところ、114件の意見が得られました。一部の関心の高いものに対しては多くの意見をいただけますが、そうではないものはほとんどご意見がいただけていない、というのが実情です。</li> </ul>  |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントの求め方はどのようになっているのでしょうか。市役所に来た人にアンケートを実施する形でしょうか。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページに計画案等を公開し、それに対して市民の皆さんに意見を出していただく形になります。その意見に対する市役所側の考えを再度公開してフィードバックをするという仕組みをとっています。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の方から意見を広く聞くという「広聴」の手段の1つとして、パブリックコメントや「市政への意見箱」というのがありますが、あまりご意見をいただけないのが実情です。一方、こちらからアンケートをお送りすると、回収率が低いながらもある程度返していただける、というようなことがあります。</li> <li>・アンケートについてですが、今年度実証実験として、無作為に抽出した市</li> </ul>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>民の方 100 人に対して、9 月から 12 月の間にスマートフォン等からアンケートを 5 回程度ご回答いただけた場合、インセンティブとして 500 円分のデジタルギフトを進呈するという取組みを実施予定です。他自治体で同様の取組みを行ったところ、通常のアンケートでは 4 割程度の回答率であったところ、インセンティブの効果もあり 9 割近い方から回答が得られたようです。</p>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>このようなアンケートで得られた回答がそのまま使えるか、という点は検討の余地があるところですが、意見として参考にさせていただく、という形でまずは実証実験をスタートしていこうと思っています。</li> </ul>  |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>それは毎回同じ人にアンケートを依頼する、ということでしょうか。</li> </ul>  |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者を無作為抽出して、そこで選ばれた方に、複数のアンケートをお願いする形です。今年の実証実験ですので 5 回程度、通年ベースであれば月 1 回程度かと思っています。どのようなアンケートを行うか、という点についてはこれから検討しながら進めて参りたいと思います。</li> </ul>   |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、イラストやマスコットキャラクターなどを募集したりするときに、小学校全部に依頼する、小学校の〇年生に依頼する、というようなことは可能でしょうか。先生方にも力を貸していただいて、各学校〇点ずつ出していただく、というような方法で作品募集をすると、かなり多くの作品が集まったりすると思うのですが、そういうことを今おっしゃられたアンケートで実施することは可能でしょうか。</li> </ul> |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>現在我々が考えている仕組みとしましては、18 歳から 80 歳ぐらいまでの年齢の方から無作為に対象者を抽出します。ですので、特定の年齢の方全員に依頼する、というのは今回の実証実験の中では難しいと思いますが、技術的には可能であると考えます。</li> </ul>  |
| 委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>この年齢層の人の情報が欲しい、という具体的なイメージがあるのであれば、ホームページやアンケートで意見募集するよりも、対象の年代の方が居る場所に行ったり、そこに意見箱を設置したりする方が、効率的に意見収集できることもあるのでは、と感じました。</li> </ul>   |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ご指摘のとおりで、一般の方はなかなかホームページを閲覧されませんので、こちらから積極的に投げかけていくような方向性は必要になってくると感じています。</li> </ul>   |

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 委員                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生や大学生等、若い人にターゲットを絞って意見を聞くという試みを美濃市がやっているといます。市役所の中に「未来創造課」という、高校生だけが配属される課を作っています。武義高等学校と包括連携協定を締結し、高校の授業の一環として、高校生6人が市役所庁舎内で地域活性化についてのアイデアを提案する、という取組みです。課長も高校生がやっているようです。</li> <li>・同じような取組みは、大学でも可能だと思えます。大学の授業の一環として、○曜日の○限目に市役所に来てもらって、というようなことは可能だと思えます。大垣市で同じことが実現できるかどうかは別として、参考になる部分もあるのではないのでしょうか。</li> </ul> |
| 事務局                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんのご意見をありがとうございました。先ほど申しあげましたように、次回さらに詳細なご説明をさせていただきたいと思えます。また、会議資料をご覧いただきながらご質問いただいても結構ですので、よろしくお願ひします。</li> </ul>   |
| 会長                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、次回の会議で事業検証を行いまして、そして最終的には市長への提言書案をまとめたと思えます。よろしくお願ひいたします。</li> <li>・会議全体を通して、何かご意見がございましたらお願ひします。</li> <li>・特に無いようですので本日の議事はこれで終了いたします。進行を事務局の方にお返しいたします。</li> </ul>   |
| 事務局                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・谷江会長、ありがとうございました。また、委員の皆様方には、貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。本日いただきましたご意見等を踏まえ、今後進捗状況をホームページ等で市民に公表してまいります。</li> <li>・以上をもちまして、令和6年度第1回大垣市行政改革推進審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。</li> </ul>  |
| <p>※ 閉会（終了時刻：午後3時30分）</p> |   |